国立国会図書館

報 道 発 表 資 料
令和 8 年 1 月 9 日
国 立 国 会 図 書 館

# 科学技術情報整備審議会から提言が提出されました

国立国会図書館長の諮問機関である「科学技術情報整備審議会」（委員長　安浦寛人九州大学名誉教授）からこのほど、国立国会図書館における今後 5 年間を目途とした科学技術情報の整備の在り方について、提言が提出されました。提言は、オープンサイエンス・オープンアクセスの進展や生成 AI の普及により私たちを取り巻く情報環境が劇的に変化する中で、国立国会図書館がどのように知識基盤を確立していくべきかという観点からまとめられています。

本日、国立国会図書館は、この「第六期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画策定に向けての提言―私たちの社会と未来をつくる知識基盤を目指して―」を、ホームページで公開しました。

https://www.ndl.go.jp/collect/tech/council/report

（国立国会図書館ホーム＞資料の収集＞科学技術情報整備＞科学技術情報整備審議会＞科学技術情報整備審議会　諮問・答申ほか）

安浦委員長からは、「AI の急速な進歩は、今後 5 年間も現在の想定を超えて大きく社会を変えていくと思われる。国立国会図書館が収集・蓄積する大量の書籍や文献データは、AI の開発や利用が進む中で、基本的情報としてその重要性がますます大きくなる。現代を生きる人だけでなく未来の人々からも現在を正しく理解してもらうために、どのような情報を残すべきかを考えて、人文社会科学を含めた科学技術情報を幅広く収集することで提言を実現していただくよう国立国会図書館の一層のご努力に期待したい。」とのコメントをいただきました。

提言を受け、国立国会図書館は令和 7 年度中に、令和 8 年度からの 5 か年を計画期間とする「第六期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」を策定する予定です。

■提言の概要

○基本的な視点

オープンサイエンス・オープンアクセスの進展や生成 AI の普及を背景として、国立国会図書館が、自然科学から人文学・社会科学に至る幅広い学問領域において、学術論文等に限らず、研究の素材となり得る国内外の多様な情報資源へのアクセス手段を広く提供し、現在のデジタル社会を生きる私たちのみならず、100 年後の未来の人々からも主要な情報源として信頼される知識基盤を構築していく必要があるとしています。

○取組の方向性

国立国会図書館の今後の取組について、「知識基盤の整備」、「知識基盤の利活用」、「外部との連携協力」という三つの視点から整理しています。そして、この三つの視点からの取組により、新たな価値の創造や社会的課題の解決から、シチズンサイエンスの発展や日々の課題解決のために、現在の私たちだけでなく、100 年後の将来世代を生きる人々からも信頼される国立国会図書館の知識基盤を目指して継続的に取り組むことを求めています。

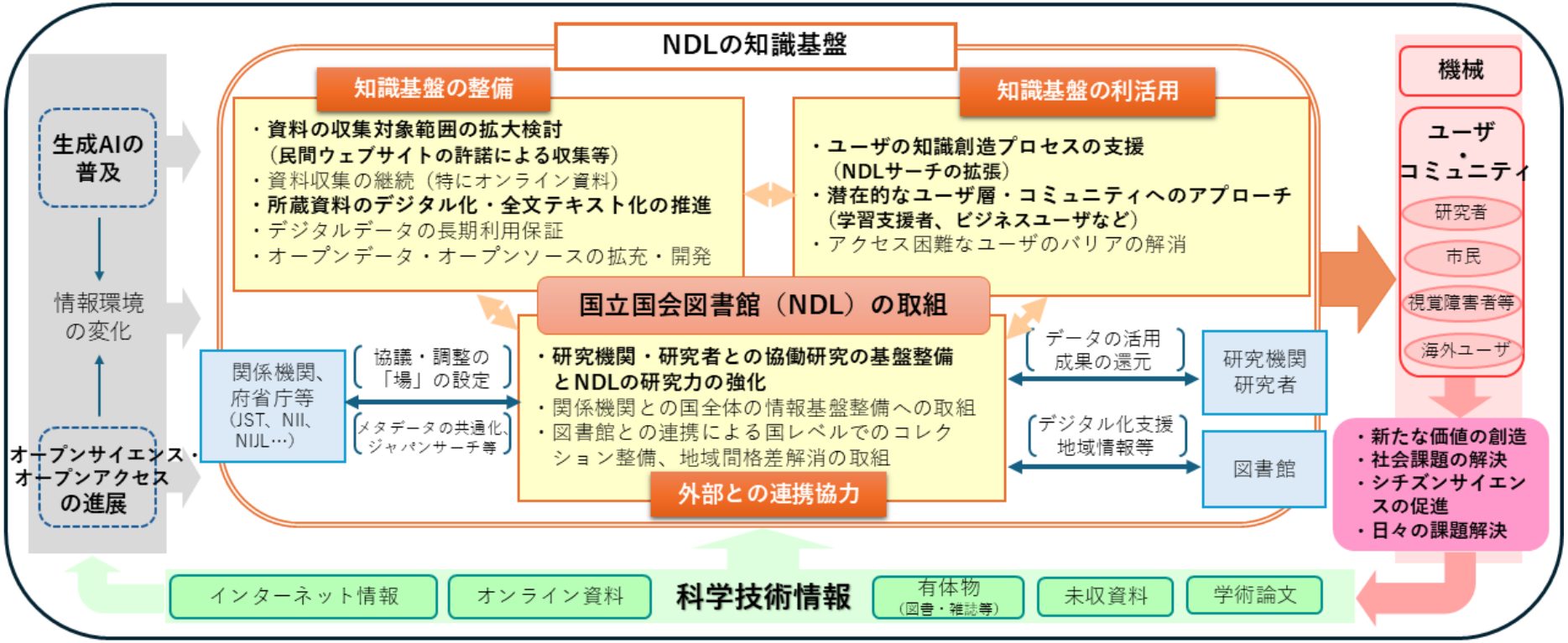
○具体的な取組

「知識基盤の整理」では、民間ウェブサイトの許諾による収集の強化をはじめとする資料の収集対象範囲の拡大検討や所蔵資料のデジタル化・全文テキスト化の更なる推進、「知識基盤の利活用」では、NDL サーチの拡張によるユーザの知識創造プロセスの支援や学習支援者・ビジネスユーザなど潜在的なユーザ層・コミュニティへのアプローチ、「外部との連携協力」では、研究機関・研究者との協働研究の基盤整備と国立国会図書館の研究力の強化などを挙げています。

※ 科学技術情報整備審議会は、国立国会図書館における科学技術情報の整備計画について、国立国会図書館長の諮問に答え調査審議するために置かれている組織です。詳しくは、国立国会図書館ホームページ「科学技術情報整備審議会とは」をご覧ください。
https://www.ndl.go.jp/collect/tech/council
（国立国会図書館ホーム＞資料の収集＞科学技術情報整備＞科学技術情報整備審議会）

■問合せ先：国立国会図書館　総務部総務課広報係　TEL：03-3506-5103（直通）

国立国会図書館

# 第六期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画策定に向けての提言
## ―私たちの社会と未来をつくる知識基盤を目指して―

**現在のデジタル社会を生きる私たちから、さらに100年後の人々から、信頼されるNDLの知識基盤を目指して継続的に取り組む。**